

◆国際理解のつどい

10月17日(日) ケニアの首都ナイロビで孤児院を運営する菊本照子さんを講師に迎え、「ケニアの地に希望の種を育てる」の演題のもと、支援に力を注ぐ日々の様子やケニアの実情を伺いました。

◆はじめのいっぽ

～楽しく学ぼう!ドイツ語編・フランス語編～

10月23日(土)・1月15日(土) 初心者を対象に、あいさつや旅行先で使える簡単な会話などを学びました。



◆つくってみよう!世界の料理
～インドネシア編・ドイツ編～

11月20日(土)・1月22日(土) 講師からその国の文化や習慣などの話を聞いたり、その国ならではの料理方法を学んだりしながら、それぞれの料理をとおして、おいしく楽しく国際理解を深めました。



◆親と子の国際講座～世界の祭り～

12月12日(日) 世界各地で開催されている祭りをかるたやすごろくをとおして楽しく学びました。手作りの「お祭りかるた」は、参加者にお土産としてプレゼントしました。



◆国際交流パーティー(年末)

12月18日(土) 水戸市近郊に住む外国人との交流の場として開催。外国文化紹介や、日本文化体験・ゲームなどを通して、楽しいひと時を過ごしました。



◆ホビングリッシュ講座

1月28日(金)「網細工」をテーマに、基本の編み方を英語で学び、「ホビー(趣味)」と「イングリッシュ(英語)」を同時に楽しみました。実習をとおし、自然な英語でコミュニケーションがとれました。



◆国際交流のつどい

3月4日(金)～25日(金) アジアにスポットをあて、講演会やフードフェア等、その魅力を多くの方に知っていただけるような催しを開催しました。



◆どようサロン

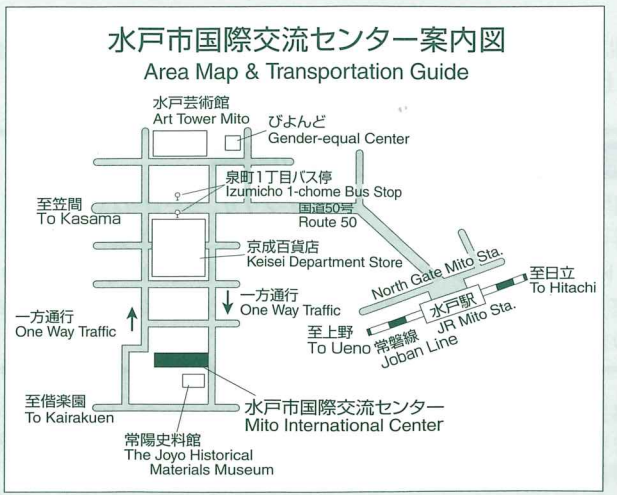
お茶を飲みながら、自由な会話を楽しむどようサロン。英語での自己紹介やゲーム、ディスカッションなどとおして、楽しい時間を過ごしました。申込み不要でどなたでも気軽に参加できるのも魅力の一つです。



◇機関紙へのご意見や感想をお待ちしています。

開館時間：午前9時から午後9時まで
休館日：月曜日、祝日

〒310-0024 水戸市備前町6-59
水戸市国際交流センター内
(財)水戸市国際交流協会
Tel:029-221-1800 Fax:029-221-5793
http://www.mitoic.or.jp/
E-mail:mcia@mito.ne.jp



Mito City International Association

(財)水戸市国際交流協会機関紙
第38号
2011.3.

自慢料理で異文化交流!世界の屋台村

毎月第4日曜日に旧くろばね地区(現:南町、宮町、梅香地区)で行われている恒例のくろばね朝市。10月24日(日)には、外国人の皆さんの協力を得て「世界の屋台村」として中国、韓国、ベトナム、タイ、フランス、ドイツ、インドネシアの屋台を出店しました。

それぞれのお国の自慢料理が並ぶ屋台にはたくさんの方が足を運び、行列ができるほど。外国人と日本人が食を通して楽しみながらお互いの文化を理解し合うことができました。



7ヶ国が並んだ世界の屋台村



ステージではアフリカドラムの演奏も

出店者の声

こんなにたくさんの方が来てくれると思ってなかったので、量が多いかなと思いながら用意したものがあっという間に売れてしまって、びっくりしました。料理を作ることに追われて、来てくれた人とゆっくり話をすることはできなかったけど、こうしたほうがいいよとアドバイスをくれる人や、「シンチャオ(こんにちは)」とベトナムのことばで声をかけてくれる人もいて、楽しい時間を過ごせました。大変だったけど、おいしい、おいしいと食べてくれる人たちの姿を見たら、疲れよりも「またこんなイベントをやりたい!」という気持ちになりました。 **ホーキムゴック・カムトウさん(ベトナム)**

第29回国際親善姉妹都市アナハイム市親善訪問及び アメリカ文化・行政視察団



2010年11月11日(木)から18日(木)までの8日間、総勢27名の親善訪問団が、国際親善姉妹都市であるアナハイム市と、フロリダ州のオーランドとマイアミを訪問しました。

アナハイム市庁舎では、市の概要や取り組み、議会制度とその運営などの説明を受け、水戸市の状況や都市計画と重ね合わせ熱心に質疑応答を行いました。その後、サイブロン口腔歯科医訓練センターの視察と、アナハイム市姉妹都市委員会主催の歓迎レセプションへ出席しました。レセプションでは、アナハイム姉妹都市委員会の皆さんをはじめ大勢の市民の歓迎を受け、交流を図ることができました。また、プロ野球チーム・エンゼルスの本拠地エンゼルスタジアムや、南カリフォルニア最大の国際会議場、アナハイム・コンベンションセンターの見学や、北米プロアイスホッケーリーグ(NHL)の試合観戦などをしました。こうした市民レベルでの交流や情報交換、施設設備の視察等を通して、また一歩友好親善を深めることができました。



【日程】

日次	月日(曜日)	地名	日程
1	11/11(木)	成田発 ロサンゼルス経由 アナハイム着	空路、アメリカへ アナハイムへ移動 ・ディズニー・カリフォルニアアドベンチャー視察
2	11/12(金)	アナハイム	アナハイム市内視察 ・市庁舎、サイブロン口腔歯科医訓練センター、 エンゼルスタジアム(歓迎レセプション)、 コンベンションセンター、ホンダセンター
3	11/13(土)	ロサンゼルス発 オーランド着	オーランドへ移動
4	11/14(日)	オーランド	オーランド市内テーマパーク視察
5	11/15(月)	オーランド発 マイアミ着	マイアミ市内視察
6	11/16(火)	マイアミ	マイアミ市内視察
7	11/17(水)	マイアミ発 シカゴ発 成田着	シカゴ空港へ 成田空港へ
8	11/18(木)	成田着	水戸市役所へ

子ども向け日本語 ボランティア養成講座

2010年10月14日(木)～2011年2月3日(木)の期間中、15回にわたり、日本語を母語としない児童・生徒に日本語を教えるボランティアの養成講座を開催しました。

現在、水戸市内では、子ども向け日本語ボランティア「せきれいの会」が、日本語が理解できない児童・生徒が少しでも快適な学校生活を送れるようにと、小・中学校に出向き日本語指導を行っています。

指導が必要な子どもたちに寄り添った活動をしてくださる、新たな人材を育てようと開催したこの講座の中で、受講者の皆さんは日本語の難しさを実感しつつも、模擬授業などに熱心に取り組んでいました。養成講座を修了された18名の方が、これから更に研修を積んで、各学校での活躍を目指します。

* 受講者の声 (アンケートより抜粋)

- 日本語で日本語を教える難しさを感じたが、それを越えた時の喜びを想像して頑張りたい。
- やっと仕上がった教案も、見直すとだめな部分が見えてガッカリ。今後の研修を頑張ります。
- 「国語」と「日本語」は違うことを知ることができた。
- 「日本語っておもしろい!」と、最初の一步を踏み出した。さらに二歩、三歩と歩みたい。
- 苦しんだ分、身に付いたことが多かったし、他の受講者とも同志として仲間意識が強まった。
- 日本語の活用を教えることが難しかったが、同時に日本語の様々な法則に気付けた。
- 日本語を話さない人の立場に立って日本語を考えることがおもしろかった。
- 「せきれいの会」の皆様がこんなに大変で重責なことを無償でされていること、尊敬します。

在住外国人のための 支援事業

市内在住の外国人や留学生に対し、快適で安全な生活を送り、水戸市や日本文化の良さを理解してもらうため、各種事業を行うほか、水戸市及び周辺市町村の地図、観光情報、生活便利帳、防災情報などを日英併記した「MITO CITY GUIDE MAP」の作成・販売、さらには英語・中国語・韓国語のホームページを開設しました。

◆外国人のための日本料理教室

食を通して日本文化にふれ、生活を豊かにしてもらおうと、日本料理教室を開催しました。7月30日(金)、外国人が好きな日本食のひとつであるお寿司、カリフォルニアロール作りに挑戦。自分でも作ることができたと皆さんうれしそうでした。

11月6日(土)には、さんまの南蛮漬けや椎茸ごはんなど秋の味覚を楽しめる料理を学びました。デザートは茶まんじゅう。蒸し上がったときには、参加者の歓声が上がりました。



◆防災訓練&AED講習会

12月15日(水) 外国人のための防災訓練を実施しました。避難誘導訓練、消火器・消火栓を使っの訓練などを体験。またAED・心肺蘇生法講習も行い、参加者は真剣に取り組んでいました。



◆外国人のためのスキー教室

2月18日(金) 雪に触れることの少ない外国人のために「スキー教室」を開催しました。初めてスキーに挑戦した人も、最後にはリフトに乗ってスキーで滑り降りることができ、スキーの楽しさを知ることができました。

◆外国人のための市内ウォッチング

2月25日(金) 在住外国人を対象に水戸市の魅力を知ってもらう市内ウォッチング。今回は、映画「桜田門外ノ変」の巨大ロケセット、ケーズデンキスタジアム水戸と茨城空港の見学、さらには世界中の美しい植物を觀賞できる植物園を巡りました。参加者は「こんな素敵な場所があったなんて知らなかった」と水戸の素晴らしさを感じていました。

国際交流活動をしている方を応援します

急激にすすむグローバル化により、水戸のまちにも世界中の様々な国籍の方が住むようになった一方、水戸市民の方が世界の街を訪れることも多くなってきました。地域社会に暮らす市民一人ひとりが、国際化に対応できる能力や国際理解を深めていくことがこれまで以上に必要になってきている状況のなか、水戸市国際交流協会は、未来の地域社会を担う若い世代を育てる取り組みを応援していきます。

今回は、世界各地をまわり、生きた情報を伝える「世界教室」という活動を企画した高土聡子さんを紹介します。

「世界教室」ってどんなことをするの?

「世界教室」では、アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ・・・世界各地で出会う人々やその生活、感じたことを写真、映像、インターネットを活用して、多くの学生や地域の方へ伝えていきます。この「世界教室」を通して、世界への関心や興味を深め、日本を改めて見つめるためのきっかけになることを願うものです。

当協会では、高土さんの「世界教室」のプロジェクトと連携を図りながら、当協会ホームページを通して、現地から届く高土さんのレポートや写真などを随時掲載して応援していきます。

http://www.mitoic.or.jp/jp/ass/sekai_kyoushitsu/index.php



「世界教室」企画者
高土 聡子さん

世界各地をめぐるながら、各国の人々の暮らしぶり、世界で発見したことや感じたことを伝えたいと思ったとき、「世界教室」というプロジェクトが浮かびました。世界中から生きた情報を届けたいと思っています。

水戸市出身。茨城大学人文学部卒業。大学在学中は、同大学ユネスコクラブと水戸ユネスコ協会青年部に所属し、国際交流イベントを開催したり外国へのスタディーツアーなどへ参加。卒業後は介護事業に従事したが、かねてからの夢である世界一周の旅を決心し、昨年退職。2011年2月、「世界教室」の実現のため日本を発った。